

増える高齢者世帯

ご近所のコミュニケーションが もしもを防ぐ

板倉町の総人口に占める65歳以上のかたの割合は、35.8%となっており、3人に1人以上が高齢者となっています。国、県、邑楽館林地区と比べて高い割合となっています。また、高齢者人口の増加に伴ってひとり暮らし世帯も増えており、その割合は全世帯の約7%となっています。これらの割合は今後も増加していくことが見込まれています。

最近ご近所でこんなことはありませんか



いつも会う人に会わない



シャッターが閉まったまま



郵便物などがたまっている

もしご近所でいつもと違うなと思うようなことがあれば、声かけをしたり、警察や役場などに連絡をしてください。ご近所付き合いが“もしも”を防ぐかもしれません。

武井祐樹さん、小島良雄さんに感謝状が贈呈されました



武井祐樹さん(中央) 小島良雄さん(右)

館林信用金庫板倉支店に勤める武井さんは、9月4日(月)に町内の80歳代男性のお宅に訪問する約束をしていましたが、約束の時間を含め3回訪問したものの、その日は会うことができませんでした。翌日も訪問し、やはり不在のように思われましたが、庭に回ったところ、転倒して動けなくなり助けを求めている男性を発見しました。

武井さんは、共通の知人である小島さんに電話連絡を取り、また小島さんの指示により男性の息子さんにも連絡をし、まもなく駆けつけた2人とともに介抱するなか、息子さんが救急車の出動を要請し、公立館林厚生病院に搬送されました。当日は猛暑日で、万が一発見が遅れていれば命に関わる事態になっていた可能性もありました。武井さん、小島さんの人命救助に寄与した功労を称え、町から感謝状が贈呈されました。

町で行ってる見守り事業

高齢者世帯を応援します

町では、独自事業としてひとり暮らし高齢者などへの訪問や、電話による見守りを行っています。

安心して生活できるよう、介護のことや、生活上でのちょっとした困りごとなども気軽に相談ください。

対象者

▼70歳以上のひとり暮らしのかた

▼70歳以上の高齢者のみの世帯のかた

必要に応じ関係機関と連携

訪問調査員2人が訪問または電話で見守りを行っています。訪問は、2〜3か月に1回程度ですが、心身の状態や生活環境に応じて適宜訪問回数を調整しながら見守りを行います。

万が一、対象者に体調の異常などが見られた場合には、医療、福祉、介護といった必要な関係機関と連携しながら

対応しています。

「会話」が大切です

本事業では、困りごとなどの相談だけでなく、何気ない会話も大切に行っています。会話は、健康や介護予防につながる大切な要素の一つです。

問合せ 介護高齢係
82-6135

私たちが訪問します



訪問調査員の高村さん(左)と田村さん(右)

役場と皆さんをつなぐ「架け橋」になれるよう励んでいます。人生の先輩である皆さんとのお話は、とても勉強になります。また、皆さんの表情が生き生きとしてくるのが何よりうれしいです。「楽しい毎日をご提供いただく」をモットーに、高齢者の暮らしを応援しています。

地域の身近な相談相手

民生委員・児童委員・主任児童委員

民生委員・児童委員は、行政との調整や適切な関係機関へのつなぎ役を担っており、赤ちゃんから高齢者まで、生活上の心配ごとや悩みごとの相談に応じています。子どもや子育てに関することを専門に活動する主任児童委員も2人います。

民生委員には守秘義務がありますので、秘密は堅く守られます。心配ごと、悩みごとを抱えこまず、安心してご相談ください。

担当の民生委員がわからない場合は、福祉課社会福祉係にお問い合わせください。

問合せ 社会福祉係
82-6133

気軽にご相談ください



民生委員児童委員協議会
こやのやずいち
小谷野泰一 会長

民生委員は、地域の見守り役として活動して、家庭訪問は主な役目です。ひとり暮らし高齢者や子育てに悩むかた、認知症や引きこもりなどさまざまな生活のしづらさを抱えているかたの家庭の見守りを行っています。

生活上のあらゆる相談に応じ、支援が必要な場合は専門機関に支援を求めると、地域と行政とのつなぎ役です。地域の見守りには、皆さまや行政業務で家庭訪問をするかたの協力が必要不可欠ですので、よろしくお願ひします。

支え合いのまちに

高齢になると個人差はありますが、脳や身体の機能が徐々に低下していき、自分でできなくなったことが増えていきます。家族がいれば補うことができますが、同居家族がおらず、家族や友人、地域との関わりが疎遠になると、住み慣れた場所での生活が難しくなることがあります。残念ながら孤独死に至った事例もあります。

体の機能が衰えても、住み慣れた地域で自分らしく生活するには、人とのつながりが大変重要です。趣味の活動や地域の行事に積極的に参加したり、離れた家族や友人とこまめに連絡を取ったりして会話を楽しみましょう。

地域のかたは、さりげない見守りや声かけで近所の高齢者を支えていきましょう。朝晩のあいさつだけでもかまいません。それだけで高齢者の孤独や孤立を防ぐことができます。時には命を守ることもできます。みんながつながって、みんなが笑って過ごせる支え合い・助け合いの板倉町をつくっていきましょう。